

## 資 料

# アメリカ教育学者C・W・トッパルにみる 現代ヨーロッパ幼児教育学受容についての一考察[研究ノート]

Research note concerning the topic, "how American childhood pedagogist, C. W. Topal,  
has accepted the Concept of European early childhood education"

鈴木 幹雄\*<sup>1</sup>

**要約：**本ノートでは、アメリカの幼児教員団体、「フレーベル USA」の表現教育学の啓蒙に参加している、キャッシー・ワイズマン・トッパル氏の造形表現活動コンセプトを取り上げる。そしてその基本フレームの概要とヨーロッパ幼児教育(学)受容の基本動態について報告する。依拠する資料は、著書『魅力的な様々な事物—子ども達に発見された様々な材料を手掛かりに行われる学習—』。全体概要と分析は今後の課題と位置づけながらも、今回の報告ノートでは、同書第1章「様々な材料を集めること、発見すること、そして組織すること」を取り上げ、同著作の基本フレームを研究する。そして筆者の、今後のアメリカ合衆国における現代幼児教育学研究の基本的フレームを解明することとする。

**Key Words：**アメリカ教育学者、C・W・トッパル、現代ヨーロッパ、幼児教育学、造形表現活動コンセプト

### 1. はじめに

①材料から始まる子どもの表現活動 20世紀から21世紀に入ると、子どもの表現活動の原点を、子ども達の体験・活動や、材料・素材に置くことによって、子どもの表現活動と表現成果の意味が、一步一步体験的に把握され、徐々に理解され、深められていった。

子ども達の表現教育に関するこのコンセプトは、ヨーロッパ先進諸国の教育界に共通して形成されていったものであった。キャッシー・ワイズマン・トッパル Cathy Weisman Topal<sup>1</sup>氏が受容の手掛かりとしているイタリアのレッチョ・エミーリア<sup>2</sup>の実践の場合にも、このコンセプトが底流をなし、アメリカの幼児教員団体、「フレーベル USA」の活動を通して、アメリカ合衆国の幼児教育(界)に受け継がれた。

②ヨーロッパにおける20世紀造形表現コンセプト 他方ヨーロッパにおける造形表現コンセプトは、1960年代中葉、ドイツの一人の芸術教育学者によって、コンセプト<材料・素材-実験-組み立てる>として提出された<sup>3</sup>。彼は1990年代後半にハンブルク大学副学長となるG・オットーで、1920年代と1940年代後半、戦後西ドイツ、ベルリン地区の教育課程改訂に関わっ

た、ベルリン造形芸術大学教授G・タッパートから、芸術教育改革の精神を授けられた学者であった。タッパートは、ドイツの芸術大学代表者として1920年代と1950年代以降の芸術教育再建に参画した。

オットーの上記コンセプトは、子どもの表現教育が、一般的に子どもの感性や心の教育をゴールとして位置づけるにも関わらず、子ども達の体験・活動や、材料・素材から出発することを原点とする立場に立っていた。

### ③ヨーロッパにおける現代造形表現コンセプトと子ども

の表現活動理解 そこで以下の本ノートでは、アメリカの幼児教員界の表現教育学の啓蒙に貢献している、キャッシー・ワイズマン・トッパル氏の造形表現活動コンセプトを取り上げる。そして、その基本フレームの概要とヨーロッパ幼児教育学受容の基本動態について報告したい。依拠する資料は、著書『魅力的な様々な事物—子ども達に発見された様々な材料を手掛かりに行われる学習—』。全体概要と分析は今後の課題と位置づけながらも、今回の報告ノートでは、同著作の基本フレームを提示している同書第1章「様々な材料を集めること、発見すること、そして組織すること」を取り上げる。そして、今後のアメリカ合衆国における現代幼児教育学研究に対するパイロット研究を切り開く。そこには、本日国際的に注目されているイタリア、

2020年12月1日受付 / 2021年1月21日受理

\*<sup>1</sup> SUZUKI Mikio

関西福祉大学 教育学部

エミリーア地方における幼児教育実践を、アメリカ幼児教育学者がいかに受容しようとしたかという研究史が背景となっている。そして同時にアメリカ合衆国における現代ヨーロッパ幼児教育（学）受容の基本骨格を見ることができる。

## 2. キャッシー・ワイズマン・トッパル『魅力的な様々な事物』

1) トッパル氏は、アメリカ人幼児教育学研究者で次のような略歴を持つ現存研究者<sup>5</sup>。

同氏は、コーネル大学で学士号を取得した後、ハーバード大学とカーペンター視覚芸術センターで視覚教育の修士号を取得した。1974年から2012年にかけて、彼女は東部アメリカの名門女子大、スミス・カレッジの教育・児童研究学科で視覚芸術教育講師を務めた。並行してマサチューセッツ州ニュートンのウィークス中学校（1970-74）、スミス・カレッジ、キャンパススクール（1974-2012）、およびスミス・カレッジの幼児教育センター（1974-2010）で表現・図工教育の教師を務めた。

また同氏は、いくつかの教師向け表現教育書籍を著してきた研究者でもあり、以下のような研究成果を公開している。『子どもと粘土と彫刻 Children, Clay and Sculpture』（1983）、『子どもと絵画 Children and Painting』（1992）、『魅力的な事物：子どもたちに発見された様々な材料たち Beautiful Stuff: Learning with Found Materials』（Lella Gandini との共著）（1999）、『線を使って考える Thinking With A Line』（2005）等。

3) 更に同氏は、さまざまなカリキュラム資料を創造してきた教育学者。『アートにおける探求:幼稚園』、『「ビッグブック」教師用ガイド』（2008）が当該図書で、これらは幼稚園から小学校5年生までの視覚芸術カリキュラム・シリーズ開発成果の一部をなしている。マサチューセッツ文化評議会とマサチューセッツ放課後協会から委託された『学校外における創造的な精神 Creative Minds Out of School』（2011）は、生徒を放課後に開かれる質の高い視覚芸術体験に参加させることを目的とした放課後の表現教育カリキュラム書籍。現在、先述のようにアメリカにおける幼児教育者団体「フレーベルUSA」に参加し、教育、デザイン教育、幼児教育へのレジャージェミリーア・アプローチ、芸術とリサイクル等の実践的啓蒙に取り組んでいる。

## 3. 体験学習から発見・探求活動へ、そして組織することへ

次に、トッパル氏の基本的幼児教育コンセプトはどのようなものだろうか、この点を概観したい。今、概略的に言い表わすならば、それは「様々な材料を集める-発見する-組織する-そして考える」というコンセプトから成り立っていると見えよう。それは、以下のように要約できる。

### (1) 輪郭

以下では、紙数の関係で、同書籍の基本コンセプトを紹介している。第1章「様々な材料を集めること、発見すること、そして組織すること」を手掛かりとする。そして同氏の教育コンセプトに関し、先ず本節では幼稚園における表現教育アプローチの論理構造を紹介し、次節、第4節では幼稚園における細やかな教育的空間構成の発想構造を紹介したい。

同書冒頭、同氏は先ず次のような言葉から始める。「何年か前から、私たちは私たちの園において、教師や父兄たちを励まし、興味深い様々な材料を集めたり、それら材料の効果的な活用の仕方を発見したりする活動に取り組んできた。…どのようにして様々な材料が様々なアイデアや考え方を燃え上がらせるかを研究する中で、私たちは次のことに気が付いた。折に触れて私たちの興味や熱中や自覚に火をつけるのは、様々な材料に目を向けたら、集めることによってなのだということを。…」<sup>6</sup>

幼児教育のこの表現活動コンセプトはどのようなアプローチに基づくプランだったのだろうか。冒頭章に紹介されている子ども達の体験活動と探求活動を辿ることにより、以下の通り、二つのアプローチが浮かび上がる。

#### <第1アプローチ：表現活動の構成>

このアプローチの基底をなしているのは、体験・探求活動連鎖「様々な材料を集める—発見する—そして組織する」という論理構造である。

①糸口01：様々な材料-②糸口02：観察すること Making Observation-③糸口03：子ども達の探求活動-④糸口04：経験を復習する-⑤糸口05：カテゴリー・リスト作り-⑥糸口06：プラスチック容器への整理-⑦糸口07：材料をカテゴリーに分類すること-⑧糸口08：材料の整理・秩序づけること-⑨糸口09：裁断すること

#### <第2アプローチ：体験活動と振り返り活動の構成>

⑩教育環境づくりの構成01：仕事を協同してこなしてできるアプローチ-⑪教育環境づくりの構成02：ア

トリエスペース-⑫教育環境づくりの構成03：手と目と心を使った探求-⑬教育環境づくりの構成04：考えるための実験室

## (2) 第1アプローチ：表現活動の構成

### ①糸口01：様々な材料

まずこの糸口01は、家族の人々への次のような呼びかけ書簡から始められた。「[ご家族の-筆者]皆さんが、家のまわりにある様々な宝物を探し出して下さることを願っています。私たちは、皆さん方、ないしは皆さんの子どもさんがこのような活動に対して理解を持っておられることに非常に興味を有しております。皆さん方が記録される、様々な材料についての対話や意見はどれも私たちの取り組みにとって役に立つことでしょう。どうか皆さんのお考えをお寄せください。」<sup>7</sup>

### ②糸口02：観察する

次に糸口02では、子どもが自分達の観察に集中できるように援助しようとする教師たちの声かけをもって始められた。

「教師：『それは刺激的だわ。何かに挑戦してみましよう。絨毯の真中においてあるいろんなもの全てを見てごらん。どれが特に興味深そうか、好奇心を引き起こしてくれそうか見てごらん。それから、…私たちに訴えかけてくるものはどれか…お話をしてください。』

ガブリエッラ：『松ぼっくり』

ミュリュ：『鍵』

ロジャー：『ゴルフのボール』／…

教師：『もし私たちが私たちの集めた諸々の材料で遊ぶほうとしたら、それらは殺到することになるわ。えり分けゲーム sorting game をしましょう。…』

子ども達：『賛成。』

教師：『ロジャー、あなたはいい考えを思いついたよだわね。どんな風に私たちは分類できるのかしら？』

ロジャー：『僕らはいろいろなものを集めた。そしてそれらを一つ一つどこかに置いていった。すると積み上げられたものはもっと少なく、もっとも少なくなっていく。そして積み上げられたものは、どんどん少なくなっていくので、…何も残らなくなっていくよ。』<sup>8</sup>

### ③糸口03：子ども達の探求活動

次の糸口03では、子どもの興味・関心から彼らの探求活動が始まっていった。トッパルは次のように説明している。

子ども達の考えを聞く：「子どもたちの探求 Exploration

の最初の段階でさえも、私達は子ども達の興味関心がどこにあるか発見することがある。将来の探求のためのアイデアや、将来のプロジェクトのためのアイデアが生まれ始める。…そのプロセスの中で、私達には、子ども達が何について考えているか、そして何に疑問を持っているかということが明らかとなる。これらの子ども達に対する我々の関心は広がり、私達が教えている子ども、しかし私達に教えてくれている子どもについての我々のイメージに、我々の新しいイメージが結びつく。そして私達は、この学習過程を推進しているのは、経験と分析との間の相互作用であることを知りました。」<sup>9</sup>

### ④糸口04：経験を復習する Revising the experience

そして経験の出し合い：「朝の最後に、子ども達と先生は、様々な材料に何が起こったかを知るために集まった。子ども達が分類された材料のコンテナを眺めている時に、教師は様々なカテゴリーのリストを読み上げた。



図1：グループになって、子ども達は諸々の材料のリストを作った。

### ⑤糸口05：カテゴリー・リスト作り



図2：いろいろなものが雑然となってきた場合には、子ども達には活動しながら整理して容器に収めるようにガイドする。

話し合いの結果、子ども達の出し合ったリストは以下の通りとなった。

- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| ・ボール        | ・園外のもの                |
| ・紙          | ・園内のもの                |
| ・はぎれ fabric | ・骨董品                  |
| ・貝殻         | ・撚り糸状のもの              |
| ・星          | ・ストロー                 |
| ・金属         | ・柔らかいものとカールしたもの       |
| ・木          | ・音楽を創るもの              |
| ・リボン        | ・美容院のもの               |
| ・花          | ・コルク品                 |
| ・ボタン        | ・輝いているもの              |
| ・キー         | ・ジュエリー」 <sup>10</sup> |
| ・女性の上着      |                       |

⑥糸口 06：プラスチック容器への整理



図3：ある容器の場合には入っている点数が少ないが、リボンとプラスチック製品の容器の点数は多い。

次の糸口 06 では、様々な物をプラスチック容器へ入れ、整理してみた。トッパルは次のように記録している。「私たちの魅力的な材料たち／ その日のおわりに、教師と子ども達は、様々な材料を動かし、まとめて整理した。私たちは一緒に、様々な材料が…いかに魅力的となったかを発見した。私たちは何度も何度も、いろいろな材料をアレンジし、再アレンジした。私たちがそれをする度に、私たちは新しい可能性を発見し、私達が興味を抱いた詳細部分に喜びを抱いた。更に私たちは、白や透明のプラスチック容器が、いかにそれぞれの材料の美しさや魅力的な質を高めてくれるか、気がついた。私たちは、集めた材料がより一層豊かであればあるほど、様々なカテゴリーはより一層変化し、より一層はっきりしてくることに気がついていった」<sup>11</sup>、と。



図4：子ども達が諸々の材料を部屋に持ち込んだ時、それらをカテゴリーに分類することは、家庭と学校との間の相互推移をつくるすばらしい方法である。更にまたそれによって、子どもと親は直ちに一つの課題に取り組むこととなる。」

⑦糸口 07：親たちの参加

(…中略…)

⑧糸口 08：材料の整理・秩序づけ

魅力的な様々な物を容器に入れることは、子ども達を材料の整理と秩序付けに導いてくれた。トッパルはその意味を次のように説明している。「秩序づけること Creating Order 様々な材料が教室に入って来た時には、行わなければならない仕事がある。包装紙やその他の材料で使える部分の切り出し、このことが様々な材料を見、保管し、活用する為に十分な寸法にしてくれる。／アニー Annie は、自分が女の子のドレスの為に使いたくなるような包装紙を一定量保存する。アニーは次のように言う。「私はゴージャスな女性を作るためにそのゴージャスな紙の一部を使いたいわ。そして、私は輝くようなものも使いたい。」彼女のアイデアを活用する為には、アニーはもっと小さな紙を使って制作する方法を見つける必要がある。この課題を解決するために、アニーはこのプロセスで裁断のスキルを使い、実践した。」<sup>12</sup>

⑨糸口09：裁断すること



図5：裁断は、幼児期に使われる非常に重要なスキルである。この美しい紙を使いたいという欲求は、アニーにとって強い推進力である。



図6：しわのよっていない、未使用の包装紙を裁断することは、興味深い紙を集める最善の方法である。

(3) 第2アプローチ：導入と振り返り活動の構成

⑩教育環境づくりの構成01：仕事を協同してこなすアプローチ

トッパル氏は、まずこの教育環境づくりの構成01について、次のように説明する。「ある日、石鹼水ときれいな水の入ったプレートが、様々な種類の材料を洗い、乾かすために子ども達に配られる。…子ども達は、材料を洗浄することが、大切な仕事であることを知る。というのも、もしそれらの材料がきれいなものでなかったならば、これらの材料を使うことが不可能となり、魅力的なものとはなれないからである。それら材料は、仕事を協同してこなすことができるようなアプローチを実現させ、その過程の中でこれらの諸々の方法をより一層よく識るようにさせてくれる。」<sup>13</sup>

⑪教育環境づくりの構成02：アトリエ・スペース

更にアトリエ・スペース作りの意味を次のように語る。「アトリエ・スペースを変える 多くの教室に設置されている典型的なスタイルのアート・センターには、クレヨン、マーカー、ハサミ、ステープラー、テープ、糊が置かれている。これら全ての備品が、注意深く行われる選択によってレベルアップされ、興味深く、魅力的な形で提供されている。…そこには、発見された様々なオブジェや諸々の自然の事物が含まれている。透明な容器や白い容器の中に、様々な材料を蓄えることによって、子ども達はそれぞれの材料のいろいろな色彩やテクスチャーをはっきり見ることが可能となる。」<sup>14</sup>

⑫教育環境づくりの構成03：手と目と心を使った探求

トッパル氏は、教育環境づくり・糸口02の後に、子ども達の、手と目と心の探求が始まることを指摘し、図版を示している。

⑬教育環境づくりの構成04：考えるための実験室



図版7：「レッジョ・エミーリアにある幼児の学校の設立者、ロリス・マラグッチは次のような言葉を述べている。「我々の学校のアプローチでは、アトリエは学校内にある付属的なスペースであるが、ここでは私達の手と心を使って探求し、私達の目を純化することが目指される。…」」（『子どもたちのたくさんの言葉』）

「考えるための実験室 A Laboratory for thinkings / アトリエ・スペース Studio space は芸術的な事項が行われる孤立した場所ではない。それは、「考えるための実験室」である。それは、考えることは材料を通して表現される、ということを見出す場所である。このことが起こるために、様々な材料を見ることができ、触れることができるような場所、それゆえに子ども達にとって、自分は何をしているのか、という所へ立ち戻れる可能性、そして様々なアイデアを振り返れる可能性が存在するようなスペースを創ることが重要なのである。子ども達が、

様々な材料を扱った自分の自分たちの作品[仕事]に精神的に集中できるような特別なスペースをキープすることは、学ぶことにとって、助けになり、子ども達が自分たち自身の強さを発見することに貢献する。

理想的なスペースは、様々なアイデアを一晩中、或いはもっと長い間、ろ過する時間を可能にしてくれる。それ故に、…その棚は、子ども達が時々訪れてくる小さな作品展示エリアとなる。更にまた、それは、子ども達どうしの話し合いを鼓舞してくれる。

子ども達にとって、それはお互いの作品を通して、お互いを知り合いにさせてくれる。…

子ども達にとって、アトリエ・スペース（ストゥーディオ・スペース）を設営し、維持することに参加することは重要なことであるが、注意深く選択された時間に、教師達のサポートを活用して行うことが大切である。分類すること、組織すること、編集すること、きれいにすること、展示すること、秩序立てることは生涯にわたるスキルである。…アトリエは新たに編成され、再アレンジされる…。



図8：さまざまな材量を集め、発見し、整理する。

教室のコーナーは、探求のスペース、考えをめぐらす静かなスペース、更には庇護されたスペースとも成りうる。様々な材料が再配列され、魅力的に提示された時、同スペースは、子ども達への招待となりうる。子ども達は、様々な材料を扱って制作をするばかりでなく、それら材料を取り扱い、それら材料を秩序づける。様々な材料を容器の中に入れて保存することによって、子ども達は容易にアクセス可能となり、同様に子ども達は片づけることも容易となる。」<sup>15</sup>

#### 4. 幼児教育独自の細やかな環境設計

トッパル氏の表現教育では、表現教育アプローチの構成と並んで、幼稚園ならではの教育的構成、細やかな教育的空間の構成が並置されている。それは以下のような配慮から成り立っている。

##### ①細やかな環境設計 01：開催準備と参加依頼

最初の細やかな教育的空間の構成、開催準備・参加依頼に関して次のように説明されている。

「本研究を始めるにあたり、私達には、様々な材料を探したいという子ども達の要請に両親が協力してくれるよう求める必要がありました。

そこで園の教師達は、次のような書簡を家庭に送付することにしました。

『お手紙／ご両親の方へ／私達は、子どもさん達が様々な材料そのものを探し出し、発見し、集めた時、それが子どもさん達にどのような意味を持つのかを研究したいと思います。このことは、子どもさん達が最初からこの取り組みに参加戴けた場合には、いろいろと思慮され、深く考え、喜んでご自身が取り組むことになるのではないのでしょうか？

今日、皆さんはお子さん達から、お子さんを手伝ってほしいというお願いを受けます。あるいは、お子さん達から、教室のアトリエ・エリアを豊かにする為に、学校に持って行く、まだ有用性のある様々な材料を探してほしいという手紙を受け取ることでしょう。皆さんが、家のまわりにある様々な宝物を探し出して下さることを願っています。…』<sup>16</sup>

##### ②細やかな環境設計 02：子ども達への呼びかけ・参加を創造する

次の教育的空間の構成としては、子ども達へ次のような、細やかな呼びかけが用意された。

「教室のスペシャルなゾーンに複数の紙バックが集まり始めています。私たちは、印を付けて、そのエリアが子ども達の目につくようにしました。

バックに付けられた様々な詩や、子どもや親の興奮に応えて、テーブルが一杯になりました。子どもも親も、彼らの宝物を見せたがっています。私達は、ご両親がそんなに意欲的に参加してくれるとは思わなかったのです。しかし子ども達と同じように、興味をもってくれました。彼らは、他の家庭ではどんなものを発見したのか、見たいと思ったのです。

紙バックをクリップで止めておくのは、中身を入れておくのに良い方法です。期待しています、という感じを

維持しておくために開かれるまでは紙パックは後ろ向きに置かれています。



図9：紙袋に入れた後、クリップで止めるのは、いろいろなものを収める上で良い方法。期待感を持たせるために、大方の袋が返されてから開封することになっている。

『この紙パックに何が入っているのかを見るまで待つて！小さな穴から、何が入っているか見れるわよ。たぶん、少し覗き見ることができるわよ。見て、私自身のきらめく杖で現れるわよ——見て、紙よまるまれ。』<sup>17</sup>

### ③細やかな環境設計 03：セレモニーの開催：

更にその次には、「大オープニング」と名付けられた、セレモニーが用意された。「私達の大オープニングの前に、我々は教師たちとミーティングを開きました。そして紙製の容器のオープニングをどのように行うかプランをたてました。私達は、園の様々な容器を集め、子ども達が発見した様々な物を収めた紙袋を集めました。私達は、誰が話し合いの司会を務めるか、誰がミーティングの観察と記録を行うか、そして誰が写真を撮るか決めました。私達は、フィルムをもっと買い、テープレコーダーの新しいテープを購入しました。私達は、発見という重要な瞬間が消えてしまって、記録も残らなくなることにならないようにと望んだのです。様々なイメージや録音は、私達が将来になって参照することになる様々な記録を集めておく上で助けとなりました。」<sup>18</sup>

・開催の大オープニング・セレモニー A grand Opening  
／「教師：グループ A の人、先生はあなた方がそうしたように、これらの紙袋のうち一つの紙袋を持ち帰って、見せてもらいました。そして、調べてみて、私に訴えかけてきたものは何だったのか知りたいと思いました。…先生は、興味深い形や色彩を発見できましたので、それをカバンの中に入れ、学校に持ってきました。数分以内に、私達は紙袋を取り上げ、それらを大きな入れ物に入れました。」

マーシー Mathy：「それらは全て混ぜ合わされていたのですか？」

ハナ Hanah：「知っているわ。…」<sup>19</sup>

### ④細やかな環境設計 04：親たちの参加準備

そして親たちの興味・関心増大を観察し、次のイベントの準備が始まった。それは、様々なプラスチック容器を注意し、親たちの喜びにボールを投げること。

「親たちが彼らの子どもを受け取った時、彼らは我々のコレクションを称賛していた。ここに、徹底した考察と発見が始まる。子ども、教師、親たちの誰もが、諸々の潜在的な材料についての新しい考えを持ち始めていく。その後の数日後、数週間後、一年間の間に、親達、子ども達は、様々な材料やプラスチック容器を注意深く選択することにより、教室に貢献することになることに喜びを発見していく。」<sup>20</sup>

### ⑤細やかな環境設計 05：材料や道具

そしてその後の環境設計課題には、材料や道具を注意深く選択する作業が続いた。それは次のように説明されている。「常に子ども達の身の回りには、余りにも使いにくい材料や、扱いたくない材料がある。カッターは、非常に気晴らしになるので、教師は不可避的に選択をしなければならず、いくつかの材料は取り扱わねばならない。このことに慎重に対応することによって、子どもの気持ちや、親たちの気持ちを傷つけることを回避することが可能となる」<sup>21</sup>と。



図10：教室の一つのコーナーが、探求のスペースにされた。

### ⑥アトリエスペースの配置

そして最後の環境設計課題としては、子ども達が探求

し、豊かに味わう場、「アトリエスペース」を配置する作業が続いた。

「アトリエ・スペースを整える 多くの教室に設置されている典型的なスタイルのアート・センターには、クレヨン、マーカー、ハサミ、ステープラー、テープ、糊が置かれている。これら全ての備品が、注意深く行われる選択によってレベルアップされ、興味深く、魅力的な形で提供されている。…そこには、発見された様々なオブジェや諸々の自然の事物が含まれている。透明な容器や白い容器の中に、様々な材料を蓄えることによって、子ども達はそれぞれの材料のいろいろな色彩やテクスチャーをはっきり見ることが可能となる。」<sup>22</sup>

## 5. おわりに トップアル：「私達が学んだこと」

トップアル氏は、第1章での取り組みの成果を「私達が学んだこと」と題して、以下の通りまとめている。それは、幼児教育施設に豊かな成果をもたらした、魅力的な一大プロジェクトであったという点で、非常に興味深い。

### ①「材料を導入すること」

「私達は…個の最初の経験をいかに計画するか何回も何回も考えた。[そして]私達は、次のように考えた。即ち、私達は、教室の社会生活に影響を与えることのできるような状況を実際に創っているのだ、と。…私達が非常に悩んだのは、子ども達が持ち込んでくるたくさんの材料について、更にはたくさんの材料をいかに扱うか、ということであった。今私達は、材料を入れるバッグというのはすばらしいアイデアであり、サイズのにもすばらしいと言うことに同意する。」<sup>23</sup>

### ②収集すること

「子ども達は、様々な材料を所持し集めるという点に関し、ナチュラルな願望を持っているように思われるが、私達は教師として、私達がそれら材料を集める前に、様々な材料の有する特性を理解することを求められている。…」<sup>24</sup>

### ③分類すること

「私達は、それら諸々の材料が、非常に興味深いものだということを知っていた。とはいえ子ども達がいかに興味をそそられるか、更には子ども達がどれだけ長い時間それら材料を眺めたり、触ったりして時間を過ごしたがるかを理解していなかった。分類することは、分かりやすい形で観察したいというこの要求に、水路を掘り、育むために、すばらしい乗り物となった。分類することによって、子ども達は様々な材料に興味を持った。そし

て私達が気がついた事は、子ども達が自分達の発見した全てのオブジェをうまく取り扱えたということ、そしてそれらを繊細に取り扱えたということである。様々な材料にこのような関心を向けることによって、それらの材料は、魅力的なものに変わった。私達は、分類のプロセスが更にまた、子ども達に相互を結合させる一つの乗り物を与えてくれるということに気づいたのであった。」<sup>25</sup>

(下線-筆者)

### ④コミュニケーションの成立

「私達はすぐに、感動した大人がコミュニケーションを取ることに、更には対話を進めることに参加しなければならないことを理解した。質問することや、質問し観察するといったような課題によって、観察は子ども達と取り組まれるこの瞬間に与えられる最も重要な部分のプレゼントとなった。子ども達の様々な会話を振り返ってみると、私達が以前には意識しなかったような子ども達の興味・関心がいかに多く出されているかに驚いてしまう。この段階でも、私達は、興味深い様々な質問やテーマが出されていることに気がついた。」<sup>26</sup>

## 註

- 1: トップアル氏の貢献を初めて知ったのは、レッジョ・エミリアの教育から学び取ろうとする彼女の仕事を通してであった。 Cf: Cathy Weisman Topal | Smith College, URL: <<https://www.smith.edu/academics/faculty/cathy-topal>>
- 2: イタリアの幼児教育施設、レッジョ・エミリアに関しては、次の文献で詳しく、図版も豊かに紹介されている。カンチェーミ・ジュンコ著『子ども達からの贈りもの—レッジョ・エミリアの哲学に基づく教育実践』萌文書院、2018年。
- 3: 拙著『ドイツにおける芸術教育学の成立過程の研究』風間書房、2001年、第10章、参照。
- 4: Kathy Weisman Topal & Lella Gandini, Beautiful Stuff | Learning with fund Materials. Davis Publications, Inc. 1999.
- 5: 上記註1のURLを参照。
- 6: Kathy Weisman Topal, op. cit., p.4.
- 7: K.W.Topal, p.5
- 8: Ibid, p.12-13
- 9: Ibid, p.16
- 10: Ibid, p.19
- 11: Ibid, p.20
- 12: Ibid, p.22
- 13: Ibid, p.23
- 14: Ibid, p.24



15: Ibid,p.24

16: Ibid,p.4

17: Ibid,p.8

18: Ibid,p.10

19: Ibid,p.10

20: Ibid,p.20

21: Ibid,p.23

22: Ibid,p.24

23: Ibid,p.26

24: Ibid,p.26

25: Ibid,p.26

26: Ibid,p.26